

嶺南地域共創センター ニュースレター

福井大学
地域創生推進本部附属
嶺南地域共創センター

「昆布」に関する公開講座が行われました

令和5年10月6日(金)に、本学・文京キャンパスの総合図書館で、「こんぶ博士」こと、高等教育推進センターの江端特命講師による公開講座「植物分類学から見た昆布」が開催されました。嶺南地域共創センターの学内支援プロジェクトの一環として、3回目の開催となる今回の講座には、22名が参加しました。前半の講演では江端特命講師が、NHK朝の連続小説「らんまん」で、植物分類学に夢中になる主人公の話を交え、「昆布」として商品になる前には、「コンブ」として生物であること、福井県に根付いている昆布にまつわる様々な文化、中でも嶺南地方で特徴的に発達した昆布の加工文化「手すきおぼろ昆布」などについて講演。受講者は大変興味深く聞き入っていました。講座の後半では、敦賀市の手すきおぼろ昆布職人・甚田久幸氏と江端講師による、おぼろ昆布削りの実演を教材にコンブの体のつくりやおぼろ昆布ととろろ昆布の違いなどが解説されました。昆布の部位ごとに削られた3種類のおぼろ昆布が受講者に配られ、部位ごとに変わる味などおぼろ昆布を五感で感じていました。



教育学部「学校体験学習」×嶺南地域共創センター 中間報告会を開催しました

令和5年10月13日(金)、敦賀市知育・啓発施設ちえなみきにおいて、嶺南地域共創センターの学内支援プロジェクトの一環で、教育学部「学校体験学習」の中間報告会が開催されました。7月14日(金)には、丸善雄松堂の大木氏によるワークショップが開催されており、参加学生は情報を繋ぐ編集術のコツを学びました。今回も地域創生推進本部の嘉瀬井特命講師の進行で、活動に参加している教育学部の学生約20名が6チームに分かれ、メンターの敦賀市、丸善雄松堂及びちえなみきの職員が聴講のもと、今後実施するチーム企画の現状などについて発表を行いました。発表を終えた学生からは、「これまで断片的に行ってきた活動が、今回メンターからのコメントを受けて、これからどこに向かって進めていくべきか、考えがまとまった。」、「今後の目標がより明確になった。」などといった声がありました。今後は、来年2月23日(金・祝)に行われる最終発表会に向けて、敦賀市内でのフィールド調査や企画実施が進められます。

